

## 中2・国語「論理を捉えて」

### (1) 本時のねらい

「今をできるだけ維持し、延命を図る」という筆者の考えに対して、知識や体験とつなげて自分の考えをもち、仲間と話し合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(C)「読むこと」才考  
えの形成、共有)

### (2) 本時の展開(六／九)

教師の働きかけ

子供の学習活動

評価規準・手立て

- 単元の最後には何をやるのでしたか。

↓意見文を書く。

- これまでの読み取りから、筆者はどんな考え方をしていることが分かりましたか。

- 自分の考えを生み出していく時には、どんなことを大切にしていくとよかったですか。

↓安田さんの主張に対して意見をもつこと。

知識・体験とつなげること。

- 「安田さんの考え方を基に、資源の危機を乗り越える方策として一番大切なことは何か」という議題で話し合いました。

- 知識と関わらせて話している、とても説得力がありますね。
- 自分の体験と関わらせて考えられましたね。

- 今の意見は安田さんのどの主張に対するのですか。
- 今の意見に説得力をもたせる知識や体験はありますか。

- みんなの意見を聞いて広がったり深まったりした自分の考えを書きましょう。また、意見文にどう生かしたのかも書きましよう。

- 「学習のまとめ」を発表しましょう。

◇課題設定

安田さんの考え方で、資源の危機を乗り越えることができるだろうか。

◇これまで読み取ってきた筆者の考え方を確認する。  
筆者が主張する「私たちは、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならぬ」から、筆者は、「今」をできるだけ維持し、延命を図ろうとする考え方をもっていることが分かる。

◇根拠を明確にして自分の考えをノートに書きまとめる。  
◇「安田さんの考え方を基に、資源の危機を乗り越える方策として一番大切なことは何か。」という議題で合意形成を図る。

【筆者の考え方に共感する】

・安田さんの考え方を大切にしていけば、この危機を乗り越えることができると思う。木は上手に使えばまだまだ長く生き残ると習った。減っているから他の資源、と考えるのではなく、まずはあるものを効率よく使っていくことが大切だと思う。

・私は安田さんの考え方こそ、資源の危機を乗り越えるために大切な考え方だと思う。今、私たちはたくさんの資源を無駄にしている。例えば、日本での年間の食品ロスは五二三万トンで、世界の食料支援量の一、二倍にあたる。まずはそういう無駄遣いや今ある資源を大切にすべきである。

・新たな資源を求めることも考えられるが、無くなったらすぐに次を求める考え方をしていたら、その資源もまたいつかは枯渇する。それよりも今ある資源の使い方を見直し、リサイクルをしたり、再利用をしたりする考え方をしていくことが大切だと思う。

【筆者の考え方に批判や疑問を抱く】

・私は安田さんの考え方は、この危機を乗り越えることのできないかと考える。たとえ、資源(森林)を長期にわたって利用する方法が編み出されたとしても、最終的には無くなってしまう。だから、新しい資源となるものを見付け、それを活用していくことが必要だと思う。現在、自動車を動かすエネルギーとして石油に変わる電気が取上げられている。このような新たな資源の開発が必要だと思う。

・安田さんの考え方に対して、疑問に思うところがある。僕は、有限の資源を長期にわたって利用する方法を考える以前に、「助け合いの精神」を推進していく方が大切だと思う。イースター島では、食料を巡って部族抗争が起きた。また、現在においても、温室効果ガスの排出量を決める京都議定書で、自国が有利になるように働きかけている。これでは一向に解決できない。だから、今ある資源を維持するだけでなく、その根底にある思いを変えていく必要があると思う。

◇学習のまとめをする。

私は、安田さんの考え方を大切にしていけば、資源の危機に迫る「今」を乗り越えることができると思っていたが、「まずはその根底にある思いを変えていく必要がある」というAさんの意見を聞いて、その考えも一理あると思いました。資源の危機にある「今」を乗り越えるためには、今ある資源をできるだけ維持するために、まずは人の資源に対する意識を変える必要があると思いました。  
意見文を書く際には、今日聞いた仲間の意見も踏まえて説得力ある文章を書きたい。

- 単元導入時に作った「単元を貫く課題」を意識して授業に臨めるように、黒板に記しておく。

- 前時の授業を振り返らせ、知識や体験と関わらせて自分の考えを生み出していくことを確認する。

- 子供たちに議論をさせ、結論を一つに絞ろうとする中で、考えの深まりを生み出す。

- 論点がずれていたり、本文を踏まえていない発言などがあつたりすれば、指摘したり修正したりする。

《評価規準》

筆者の考え方に対して、多様な見方から検討したうえで、知識や体験と関わらせながら自分の考えをもっている。

(ノートの記述・発表内容)

◆手立て  
「立場を明らかにする」  
「考えの根拠となる知識や体験を用いる」  
「用いた知識や体験から考えたこと」といった考えを導くための手順を示すようにする。

- 異なる立場の考え方を聞いてどう考えたのかという問いかけをすることで、交流を通しての変容が実感できるようにする。

- 次時から行う意見文に向けた思いを書きまとめるよう伝え、常に言語活動を意識させていく。